

応用数学

第2章：確率統計

統計学1_01, 統計学1_02

集合とは

ものの集まりである。

数学的には、下記のように表現する。

$$S = \{a, b, c, d, e, f, g\}$$

$$a \in S$$

集合(S)の要素(a,b...)同士は明確に区別することができる。

集合Sの内部に、集合 $M = \{c, d, g\}$ があったとすると、

$$M \subset S$$

集合Sに含まれないhは、

$$h \notin S$$

のように区別、表現できる。

※確率・統計における「事象」は、集合として取り扱うことができる。